

# がんゲノム

M-03-19-L

## オーガナイザー

病理学講座 教授 江幡 正悟

## 教員名

病理学講座

教授 江幡 正悟

内科学第2講座

准教授 蘆田 玲子

内科学第3講座

准教授 赤松 弘朗

総合周産期母子医療センター

病院教授 南 佐和子

非常勤講師

関西医科大学 清水 俊雄

## I 授業の目的

第3次対がん10か年総合戦略では、がんゲノム医療の重要性が強調されている。そこで本科目では、遺伝子異常によってがんが発生するメカニズムを理解した上で、クリニカルシーケンスの考え方を学ぶ。各診療科のがん診療において、ゲノム情報をどのように役立てているか学習する。

## II 到達目標

1. 主ながん遺伝子、腫瘍抑制遺伝子を列挙し、その機能を説明できる。
2. 遺伝子変異、染色体コピー数異常、融合遺伝子の形成、エクソンスキッピングなど、がんで認められる遺伝子異常を列挙し、説明できる。
3. 生殖細胞系列変異と体細胞変異の違いを説明できる。
4. 遺伝性腫瘍の代表的疾患を挙げることができる。
5. 日本のがんゲノム医療体制の概略を説明できる。
6. がんゲノム医療の目的を具体的に説明できる。
7. クリニカルシーケンスの流れやエキスパートパネルの位置づけを説明できる。
8. パネル検査に必要な検体を列挙できる。
9. ゲノム情報に基づいて腫瘍を診断し、適切な薬剤を選択するプロセスを説明できる。
10. 遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。

## III 評価方法

出席が講義数の3分の2以上の者を評価の対象とする。講義への取り組みを評価し、60点以上を合格とする。

